

第8章 学校における食育の推進の評価

1 評価の基本的な考え方

学校における食育の推進の成果を検証するためには、食育の推進体制等の評価を行うことが必要である。

したがって、食育の評価を、学校評価の評価項目として位置付け、目標と食育の推進体制等に関する指標を設定し、内部評価および外部評価を行い、その達成状況を総合的に評価することが求められる。

食育推進コーディネーターは食育の視点に立った評価資料を作成し、評価に資するものとして提供することが望まれる。

学校における食育は、学校教育活動全体を通じて総合的に推進することにより、成果が期待できるものであることから、食育の推進の成果を検証するためには、各教科等における個々の食に関する指導に対する評価ではなく、全体としての食育の推進体制等の評価を行うことが必要である。

したがって、食育の評価を、学校評価における評価項目として位置付け、学校の実情や児童生徒の実態に応じた目標と食育の推進体制等に関する指標を設定し、その達成状況を評価することが求められる。

また、食育の推進は、家庭・地域との連携・協力が不可欠であることから、保護者や地域の関係者自身による食育の重要性の認識や食生活の変容、学校の食育推進への理解やかかわりなどについて、家庭・地域での取組状況をふまえた自己評価を行うとともに、学校における食育の推進体制に対する学校関係者評価（家庭・地域による外部評価）を行い、総合的に評価することが求められる。

なお、各教科等における食育は、関連教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間等において、教科等のねらいに沿って指導が行われる。ここでの評価は、まずは、教科等のねらいに対する評価が必要であり、直接的には食育の評価にはならないと考えられる。教科等における食に関する指導については、食育推進コーディネーターが食育の視点に立った評価資料を作成し、担任（教科担当）等が行う当該単元の評価に資するものとして提供することが望まれる。

2 評価の方法

食育全体計画における「食育の目標」と「各学年の食育の目標」を設定することが重要である。

(1) 目標の設定

学校が、教育活動その他の学校運営について、継続的に改善していくためには、学校の実状や児童生徒の実態に応じて目標を適切に設定することが重要である。食育に関しては、第3章で示した各学校で作成される食育全体計画における「食育の目標」と、それをより具体的に記述した「各学年の食育の目標」を設定する。

なお、福島県では学校における食育の方向性と目標、及び発達段階に応じた行動指標が「ふくしまっ子食育指針」の中で示されている。これらとの関連を図りながら、各学校で食育の目標及び各学年の食育の目標を設定していくことも考えられる。

評価のための指標は、目標の達成状況を把握するための指標（成果指標）と、達成に向けた取組みの状況を把握するための指標（取組指標）に大別できる。

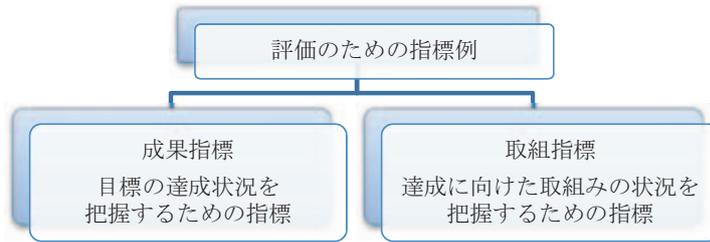
例示した指標は、食育基本法及び食育推進基本計画の趣旨をふまえたものであり、数値による定量的な指標からそうでないものまで様々なものが含まれている。これらの指標は、学校の実状等に応じて適切に設定する必要がある。

指標例②は、作成・改善の有無を達成状況で評価するよりも、どのように作成・改善されたか、取組みの状況を評価すべきものである。同様に指標例③も、授業の実施回数を定めて達成状況の評価するよりも、年間指導計画にしたがってどのような指導が行われたかを評価することが重要である。

一方、指標例④は、実態把握のもとに具体的な数値目標を定め、達成状況の評価しつつ継続的に取り組むことが、問題状況の改善へとつながっていく。

(2) 評価指標の設定

第3章で記述した食育全体計画における「食育の目標」の達成状況の評価指標として、次のような例が考えられる。



- ① 教育課程への位置付けや校務分掌への位置付け等、食育の推進体制の整備状況
- ② 食育全体計画、年間指導計画等の作成・改善の状況
- ③ 食に関する指導の実施状況
- ④ 朝食摂取、睡眠時間、排便習慣等、生活習慣に関する調査の結果
- ⑤ 農林漁業体験等、食に関する指導における体験活動の実施状況
- ⑥ 献立作成における栄養バランスや食味の改善の状況
- ⑦ 食に関する指導における学校給食の活用状況
- ⑧ 学校給食における地場産物の活用状況
- ⑨ 伝統的な食文化の継承等に向けた郷土食や伝統料理等の献立への活用状況
- ⑩ 適切な給食時間の設定等の環境整備の状況
- ⑪ 個別指導体制の整備・実施の状況
- ⑫ 学校間や家庭・地域との連携状況 など

教育の目標は子どもの成長であることから、中でも児童生徒の状況に関する成果指標をできるだけ重視することが望まれる。しかし、成果指標だけで学校における食育の推進の全体を評価することは困難であるため、適宜、取組指標の設定も必要となる。

成果は数値で示すことが大切だが、数値によって示すことのできない指標にも焦点をあて、状況を適切に把握することが重要である。

(3) 具体的な評価基準の設定

例えば、「A…十分達成」「B…ほぼ達成」「C…要改善」のように、達成度を判定するための基準を定める必要がある。そのためには、実態をふまえた上で、達成できた状態とはどのような状態であるかを明らかにしておくことが重要である。

3 評価の実施



学校における食育の評価は、学校評価における評価項目に位置付けて行うが、目標の達成状況を検証し、その原因分析等を行うためには、客観的な情報・資料を日常的に収集・整理することが重要である。そのような日常的な情報・資料の整理、児童生徒の変容の把握や分析、外部評価のためのアンケートの実施・集約・分析など学校評価への資料提示に係る諸作業は、食育を担当する委員会などの組織を活用することが有効であり、食育推進コーディネーターを中心とし、関係職員の連携・協力のもとに行われることが望まれる。

また、1年間にわたる取組みや、指導効果を年度途中に確認し、改善を加えながら進めていくためには、目標（Plan）－実行（Do）－評価（Check）－改善（Action）というPDCAサイクルに基づいて取り組む必要がある。

学校評価の結果は、保護者や地域住民等に対して説明するとともに、学校のホームページに掲載することなどにより、広く公表することが原則である。学校における食育の推進の評価についても結果を公表し、保護者や地域住民と意見交換を行うことを通じて相互理解を深め、学校、家庭、地域の連携体制の改善・強化を促進しつつ、食育の推進の取組みを組織的・継続的に改善していくことが重要である。

4 評価の実際 A小学校における食育の評価例

(1) 目標の設定



児童の実態をふまえ、食育の目標を、「ふくしまっ子食育指針」の項目ごとに設定。

食育の目標を、具体的に示すため、各学年の食育の目標を設定。

(2) 評価指標の設定

学校評価アンケートの中に、食育に関する評価指標を設け、目標の達成状況について検討する。

お子さまの学校生活に関する調査
 お子さまの学校生活や本校の教育活動に関する以下の項目について、お考えをお聞かせください。

選択式の回答は、該当箇所のマーク○を塗りつぶしてご回答ください。
 ○：空白マーク ●：正しいめりつぶし ✓：不十分なめりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。

(1) お子さまの様子についてお伺いします。

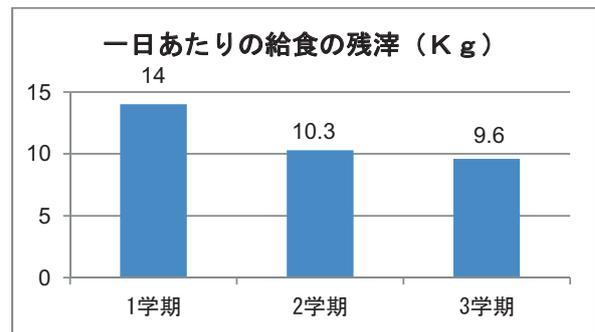
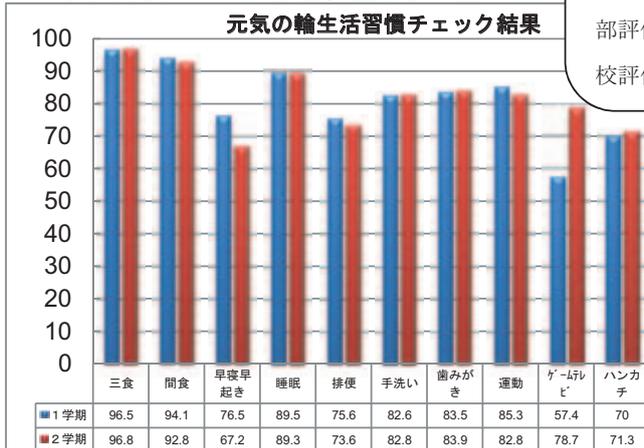
| | よくあてはまる | 少しあてはまる | あまりあてはまらない | 全くあてはまらない | わからない |
|---|---------|---------|------------|-----------|-------|
| 1 子どもは、授業が分かりやすいと言っている。 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2 子どもは、学習を理解している。 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 3 子どもは、家庭学習に取り組んでいる。 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 4 子どもは、楽しく学校生活を送っている。 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5 子どもは、「おはよう」や「こんにちは」などのあいさつをしている。 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 6 子どもは、担任や教職員と会話をしたりふれあったりしている。 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7 子どもは、自分の仕事や役割を忘れずに行っている。 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 8 子どもは、進んで運動に取り組んでいる。 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 9 子どもは、三食規則正しく食事をとっている。 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 10 子どもは、好き嫌いしないで食事をしている。 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 11 子どもは、顔洗ひ、歯みがき、後かたづけなどの生活習慣を身につけている。 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | |
|----|-----------------------|
| 8 | 子どもは、進んで運動に取り組んでいる。 |
| 9 | 子どもは、三食規則正しく食事をとっている。 |
| 10 | 子どもは、好き嫌いしないで食事をしている。 |

教職員は、児童・保護者のアンケート結果や各種データをもとに評価を行う。

その際、食育推進コーディネーターは、校内組織を活用し、日常的な情報・資料の整理、児童生徒の変容の把握や分析、外部評価のためのアンケートの実施・集約・分析などを行い、学校評価への資料提示を行うことが望まれる。

<学校評価のための各種調査結果の提示>

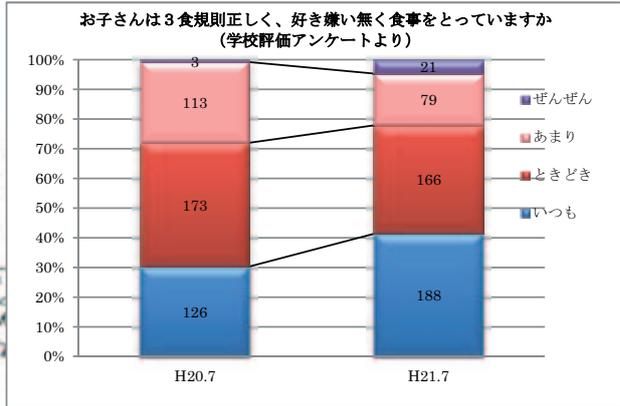


食育だより

毎月19日は、食育の日です。
 今月の食育目標は「朝食をしっかりとろう」です。

7月の行った「学校評価アンケート」の結果、三食規則正しく、好き嫌いなく食事をとっている児童の割合が40%と、前年度の調査に比べて、増えていることがわかりました。さらに朝の調査からも、毎朝朝食を食べる割合や、朝食の主食に米飯を食べる児童が増えました。

朝食の時「いつも食事が早い」「食事が早いことが多い」児童が合わせて50%いることも分かり、これらの児童は、「なかなか起きられない」、「朝、のんびりしない」、「家庭学習の時間が減っていない」、「おやつの時間が減っていない」、「テレビを3時間以上見る」などの割合が高いなど、他の生活習慣との関連も明らかになりました。今後は、これらの実施を推進して食育を進めていきたいと思っております。



学校における食育の推進の評価についても結果を公表し、保護者や地域住民と意見交換を行うことを通じて相互理解を深め、学校、家庭、地域の連携体制の改善・強化を促進しつつ、食育の推進の取組みを組織的・継続的に改善していくことが重要である。